東京都　こども未来会議　第５回

子ども、子育てに寛容な社会の実現に向けて

２０２１年１１月１７日（水）

政策研究事業本部
執行役員　主席研究員
矢島 洋子

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

MUFG

自己紹介・本日のアジェンダ

■自己紹介（委員等）

・東京都子供・子育て会議　委員

・文部科学省「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」委員

・総務省「ポスト・コロナ期の地方公務員のあり方に関する研究会」委員

・中央大学「WLB＆多様性推進・研究プロジェクト」研究メンバー　ほか多数

■本日のアジェンダ

１．子ども、子育てに対する寛容さが失われつつある現状について

２．子ども、子育てに寛容な社会の実現に向けた気運醸成について

１． 子ども、子育てに対する寛容さが失われつつある現状について

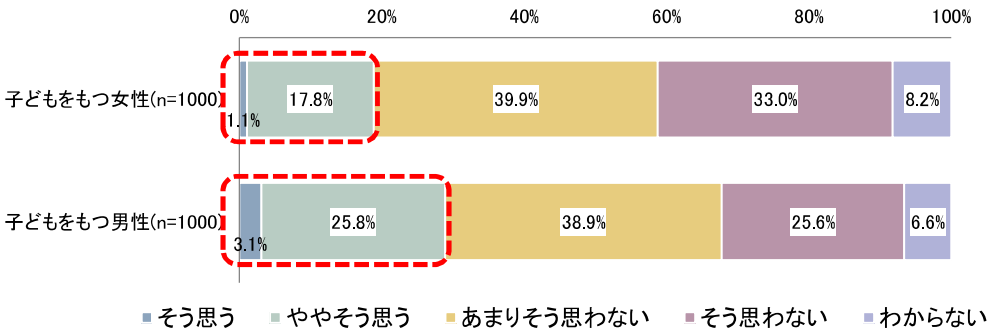
～令和２年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
「子育て支援の社会的気運の醸成を図るための普及啓発に係る調査研究事業」
（令和３年３月）調査結果より～

◆調査対象
インターネット調査にて、以下の①～③の条件に該当するモニター各1,000名ずつ（男女各500名）を対象とした。
なお、回答者の地域的な偏りを防ぐため、国勢調査の地域ブロック別人口に応じて、回答者の割付を行った。
①乳幼児層（20～40代で３歳未満の子どもがいる人／当事者層a,b）
②未就学児層（20～40代で３歳以上～未就学児がいる人／当事者層c,d）
③子どもがいない層（20～60代で子どもがいない人／非当事者層e,f ）

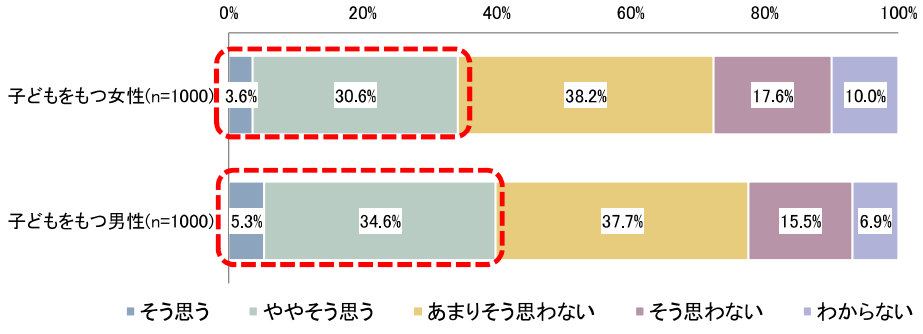
（１）調査結果　①子育てしやすい社会、子連れの親子をあたたかく見守る社会か

子育てしている男女の多くが、**現代の日本社会を子育てしやすい社会だと思っていない**

図表１ 現代の日本社会は、子育てがしやすい社会だと思うか（単数回答）



図表２ 現代の日本では、公共の場において、子連れの親子をあたたかく見守る人や助ける人が多くいると思うか（単数回答）



■ 現代の日本社会は子育てがしやすい社会だと思う人は、**子どもをもつ女性の約２割にとどまる。女性の方が、男性に比べて子育てにしくい社会と感じている傾向。**

■ 公共の場において、子連れの親子をあたたかく見守る人や助ける人が多くいると思う人は、子どもをもつ男女ともに約３～４割。

（出所）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング「子育て支援の社会的気運の醸成を図るための普及啓発に係る調査研究事業」（令和３年３月）　スライド３～９まで同様。
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210412_3.pdf

（１）調査結果　②子連れでの外出控え（控えている外出先）

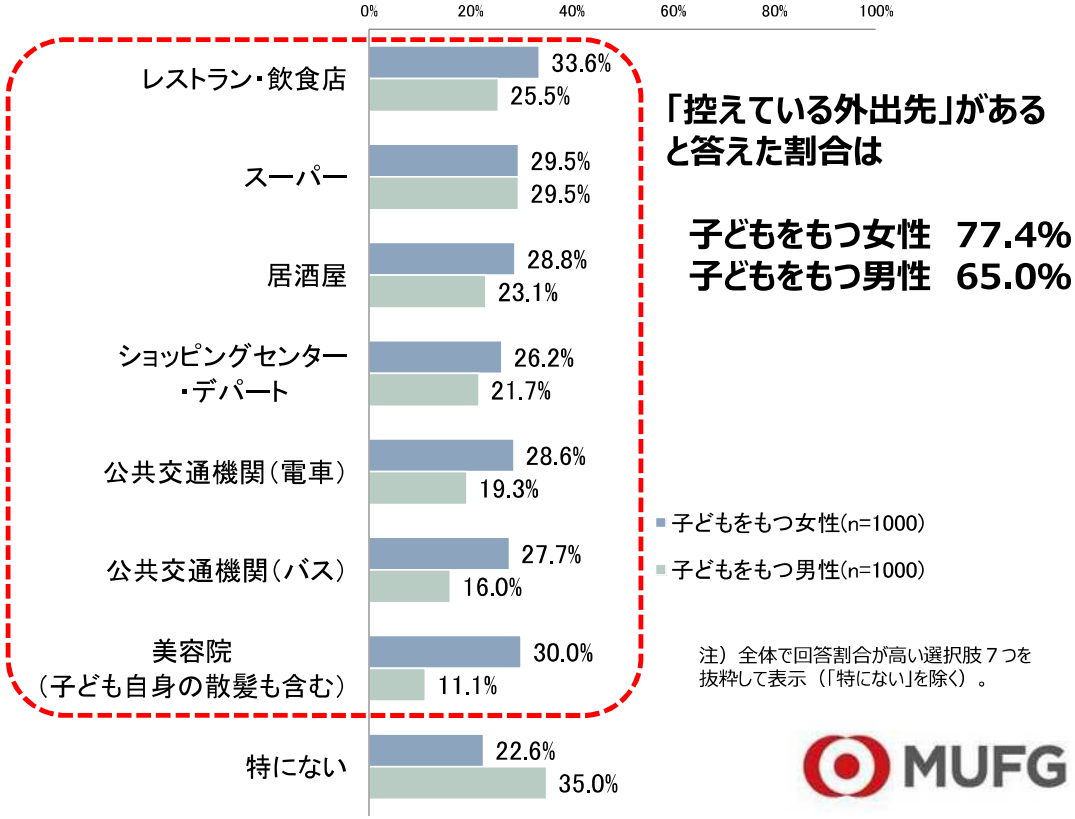
子育て女性の多くが、「子どもを連れて行ってみたいが、**出かけることを控えている外出先」がある**

■ 自分一人と子どもとの外出を控えている外出先がある割合（※）は、**「未就学の子どもをもつ女性」では８割弱。**

※「特にない」以外のいずれかを回答した人の割合

■ 子どもの年齢にかかわらず、**概ね女性の方が、男性に比べて外出を控えている**傾向。

図表３　子どもを連れて行ってみたいが、出かけることを控えている外出先（複数回答）



「控えている外出先」がある
と答えた割合は

子どもをもつ女性　77.4%
子どもをもつ男性　65.0%

注）全体で回答割合が高い選択肢７つを抜粋して表示（「特にない」を除く）。

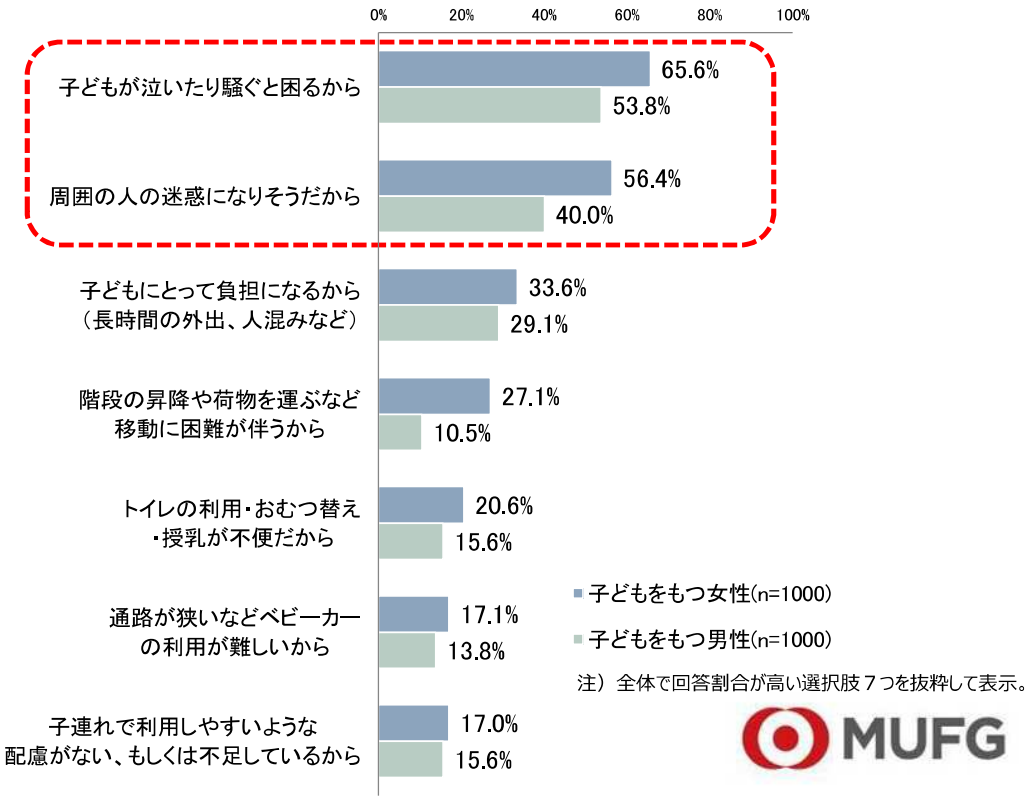
（１）調査結果　②子連れでの外出控え（控えている理由）

子連れでの外出を控えている理由としては、**「周囲への気兼ね」が大きい**

■ 公共交通機関（電車）の利用を控えている理由は、
「子どもが泣いたり騒ぐと困るから」
「周囲の人の迷惑になりそうだから」
などが多い。

■ 全体的にみると、バリアフリーを含めた物理的な環境の課題以上に、
周囲への気兼ねから、子連れでの外出を控えている様子がうかがえる。

図表4 子連れでの公共交通機関（電車）の利用を控えている理由（複数回答）

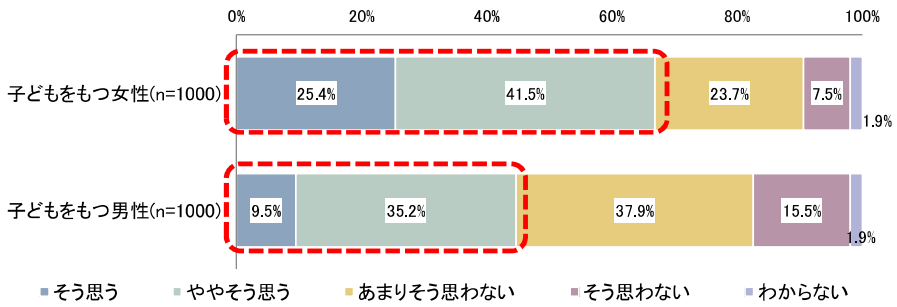


注）全体で回答割合が高い選択肢７つを抜粋して表示。

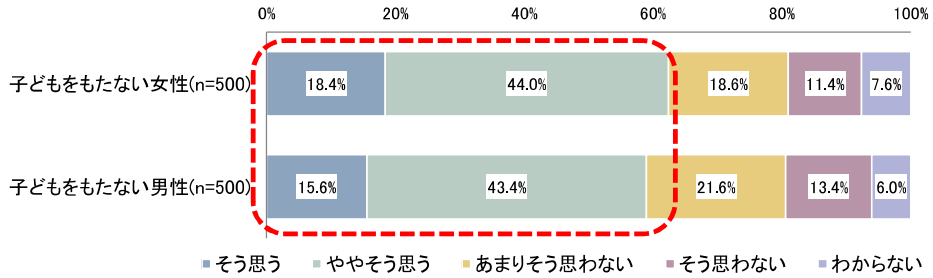
（１）調査結果　③公共の場で子どもが泣いたり騒いだりすることについて

子育ての**当事者層は周囲から責められるのではないかと不安**に感じている傾向にある一方、
非当事者層の多くはあたたかく見守りたいと思っている

図表5【当事者層】公共の場で、自分の子どもが泣いたり、騒いだりした際、周囲から責められるのではないかと不安になるか（単数回答）



図表６【非当事者層】公共の場で、子どもが泣いたり、騒いだりした際、あたたかく見守りたいと思うか（単数回答）



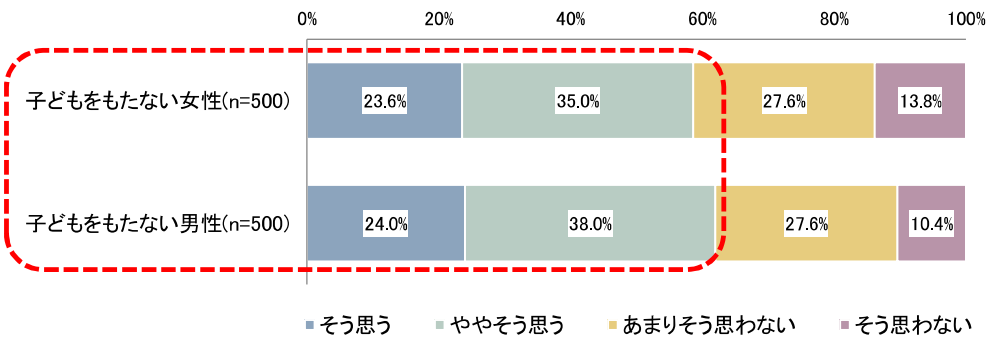
■ 公共の場で、自分の子どもが泣いたり騒いだりした際、**周囲から責められるのではないかと不安になるか**、との問いに対して、**子どもを持つ女性の約６～７割が「そう思う」又は「ややそう思う」**と回答。

■ 公共の場で、子どもが泣いたり騒いだりした際、**あたたかく見守りたいと思うか**、との問いに対して、男女とも子育ての**非当事者層の６割前後は「そう思う」又は「ややそう思う」**と回答。

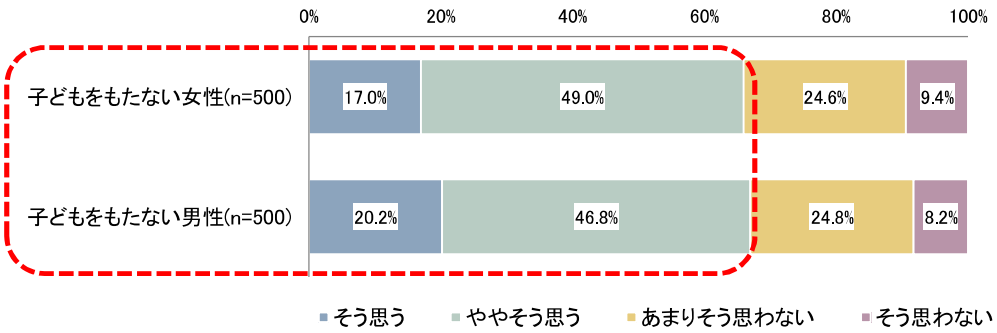
（１）調査結果　④子どもとの関わり・理解と子育て世帯への声かけ・手助け

子育ての非当事者層は、**子どもへの接し方や子育て世帯の困りごとの理解に課題**

図表7【非当事者層】子どもとどのように接していいかわからない（単数回答）



図表8【非当事者層】子育て世帯がどのようなことに困るのかわからない（単数回答）

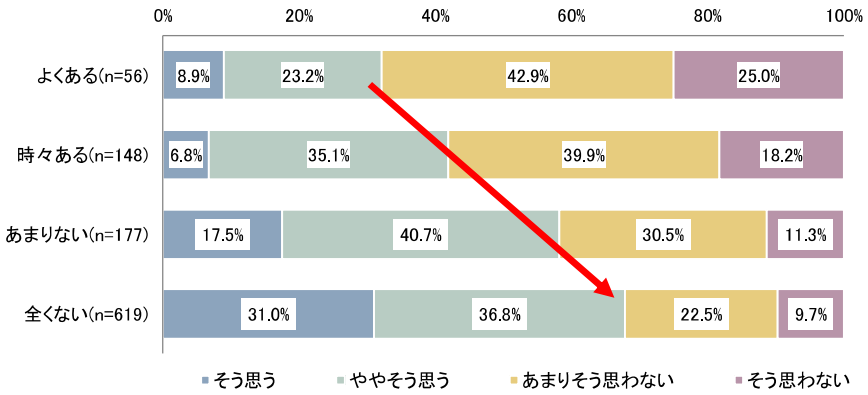


■ 子育ての非当事者層では、「**子どもとどのように接していいかわからない**」、「**子育て世帯がどのようなことに困るのかわからない**」人が過半数。

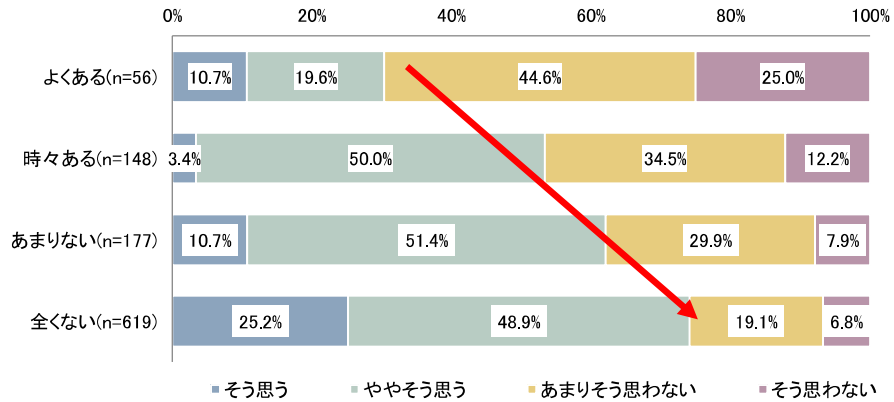
（１）調査結果　④子どもとの関わり・理解と子育て世帯への声かけ・手助け

中でも日頃、**小さな子どもと関わる機会が少ない人ほど、理解が不足する傾向**

図表9【非当事者層】家族や親戚の子どもをあやしたり、子どもと遊ぶ機会×子どもとどのように接していいかわからない（単数回答）



図表10【非当事者層】家族や親戚の子どもをあやしたり、子どもと遊ぶ機会×子育て世帯がどのようなことに困るのかわからない（単数回答）

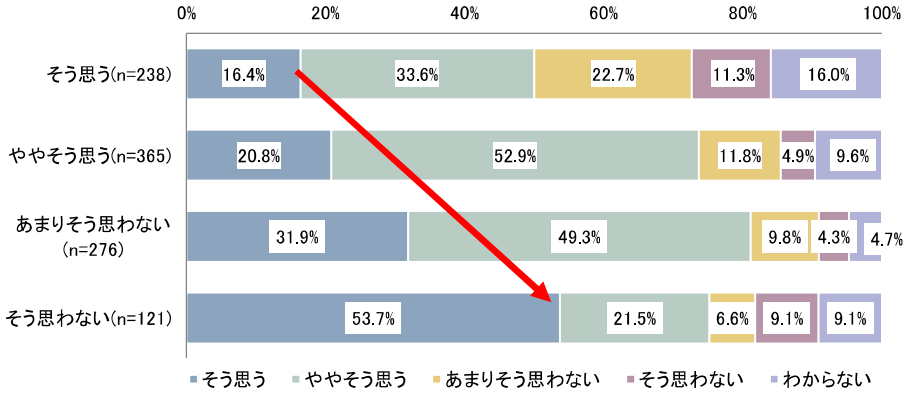


■ 子育ての非当事者層の中でも**日頃小さな子どもと関わる機会が少ない人ほど、「子どもとどのように接していいかわからない」「子育て世帯がどのようなことに困るのかわからない」と感じる傾向が強い。**

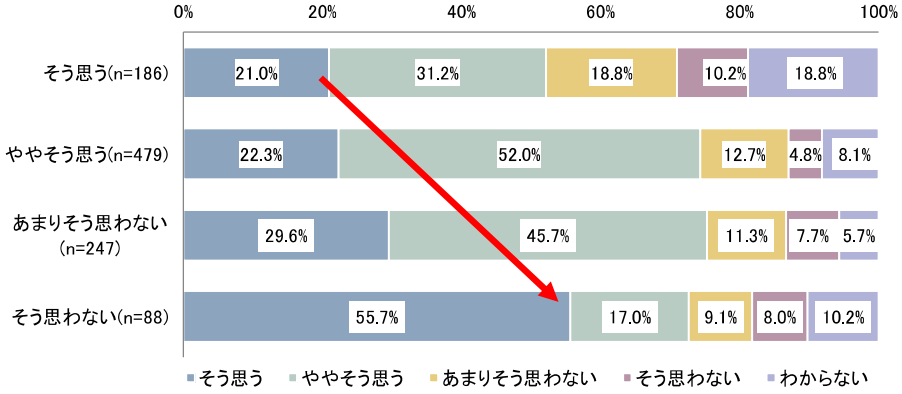
（１） 調査結果　④子どもとの関わり・理解と子育て世帯への声かけ・手助け

子どもとの接し方や子育て世帯の困りごとがわからない人ほど、**子連れ親子への手助けをしたいと思う傾向が少ない**

図表11【非当事者層】子どもとどのように接していいかわからない×公共交通機関で子連れの親子が困っていたら、手助けをしたいと思うか（単数回答）



図表12【非当事者層】子育て世帯がどのようなことに困るのかわからない×公共交通機関で子連れの親子が困っていたら、手助けをしたいと思うか（単数回答）



非当事者層の子育てへの理解を深めることが、子育て支援の気運醸成につながるのではないか

（２）調査結果のポイント

✓ **「子連れでの外出を控えている外出先がある」人は６割以上。**バリアフリーなどの環境以上に、子どもが泣いたり騒いだりすると困るからなど、**周囲への気兼ねが外出控えの最大の理由**

✓ **特に母親において、**公共の場で子どもが泣いたり、騒いだりした際、**周囲から責められるのではとの不安感が高い傾向**

✓ **日頃小さな子どもとふれ合う機会が少ない人**は、**「子どもとの接し方がわからない」「子育て世帯の困りごとがわからない」と思う人**が多く、外出先などでの**手助けも少ない傾向**

２．子ども、子育てに寛容な社会の実現に向けた気運醸成について（私案）

１）問題の背景
２）期待される変化
３）対応の方向性
４）新型コロナ対応社会における新たな課題

１）問題の背景

＜子育て家庭を取り巻く環境＞

✔世帯の多様化・細分化
　　：異なる世代・家族形態との交流減

✔暮らしと地域社会の分断（情報・必需品のネットを通じた入手　等）
　　：リアルな地域社会での交流の必要性低下

＜子育て家庭＞

✔ワンオペによる心もとなさ
　　：父母にかかる心理的負担の差

２）期待される変化

目指すべき「寛容な社会」のあり方と
そこに至るまでの過程で「不寛容さ」に直面する
子ども・子育て家庭を守る「多層的な方策」の検討が必要

LEVEL３：積極的に関わらない・支えあえない
→ 声かけ・手を差し伸べる

LEVEL２：知らない・拒絶する
→ 受け入れる・拒絶していないことを表現する

LEVEL１：子育て家庭内のワンオペ・他者の反応に敏感
→ 母親以外の担い手（特に父親）の存在感を増すことで
母親が不寛容に晒されるリスクを減らす

３）対応の方向性

✔声かけ・手助けの好事例の普及

：地域で期待されるサポート、公共交通機関利用時の良い振る舞い例　等

✔つながりを育む領域と

セグメントにより安心を醸成する領域の設定

例）つながり　：乳幼児との触れ合い授業の徹底、地域活動等にダイバーシティ推進

（多様な世代・世帯参加へのインセンティブ付与　等）

セグメント：公園の目的別設置、公共施設・病院等のフロア・導線等の見直し

✔（両親家庭でも）父親不在で育児をしていることの

不自然さへの気づき（地域・支援者等）

：アンコンシャスバイアスの除去

4）さらに。。。新型コロナ対応社会における新たな課題

新型コロナによる変化（テレワークの進展等）に対し、
「子どもの生活への影響」の視点が必要

コロナ禍による社会環境変化への対応において
子ども・子育て家庭への不寛容が増していないか？

例：テレワークによる家庭の職場化
「子どもの生活への影響」の視点を企業経営者に求める！

・仕事と生活時間のメリハリのついた働き方を
残業削減・休憩時間（昼食含む）の確実な確保　等
・在宅を前提としたTV会議マナーの共有
子どもの声が聞こえるのは当たり前
心理的安全性の高いコミュニケーションを心掛ける　等

ご利用に際して

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、講演者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

www.murc.jp/

録画・撮影・キャプチャーなどの行為、資料の二次利用を固くお断りいたします。

Mitsubishi UFJ Research and Consulting